

株式会社千葉銀行が実施する 株式会社イオンファンタジーに対する ポジティブインパクト評価に係る第三者意見

株式会社日本格付研究所（JCR）は、株式会社千葉銀行が株式会社イオンファンタジーに実施するポジティブインパクト評価に対し、第三者意見書を提出しました。

<要約>

本第三者意見は、株式会社千葉銀行（千葉銀行）が株式会社イオンファンタジー（イオンファンタジー）に実施するポジティブインパクト評価（本PI評価）に対して、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）の策定したPIF原則及び資金使用を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク（モデル・フレームワーク）への適合性、並びに環境省のESG金融ハイレベル・パネル設置要綱第2項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォース（PIFTF）が纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性を確認したものである。株式会社日本格付研究所（JCR）は、PIF第4原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、独立した第三者機関として、(1)イオンファンタジーに係る本PI評価に基づくファイナンスの合理性及び本PI評価のインパクト、並びに(2)千葉銀行のPI評価フレームワーク及び本PI評価のPIF原則に対する準拠性について確認を行った。なお、本第三者意見は2024年9月30日付の本PI評価を対象としており、有効期限は本PI評価に準じる。

(1) イオンファンタジーに係る本PI評価の合理性及び本PI評価に基づくファイナンスのインパクト

イオンファンタジーは、1997年に設立した、イオングループのサービス・専門店事業における中核企業であり、大型ショッピングセンター内における遊戯施設の企画・運営を行っている。「モーリーファンタジー」を主力ブランドとしたファミリー向けアミューズメント施設の運営を行うアミューズメント事業と、大型の遊具や創造力を育む知育玩具などを備える室内遊具施設を運営するプレイグラウンド事業が主要事業である。国内のみならず、中国やアセアン諸国へも店舗展開をしており、2024年2月期末時点の延べ店舗数は1,100を超える。2005年には東京証券取引所第一部上場を果たし、現在は東京証券取引所プライム市場に上場している。

イオンファンタジーは「こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる」をパーパスとして最上位概念に位置付けており、本パーパスに基づき、2022年にサステナビリティ方針を定めている。イオンファンタジーは方針に定めた価値を持続的に創出していくにあたり、5つのマテリアリティを特定しており、その推進にあたっては、部署横断型の推進チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置することで、具体的な取り組み内容の検討及び実践を進めている。また、企業活動の中核としてサステナビリティ経営を進めることを目的に、上部組織として「サステナビリティ委員会」を取締役会諮問機関として設置し、取締役会から諮問を受けた内容につ

いて協議、答申を行っている。

本 PI 評価では、イオンファンタジーの事業活動全体に対する包括的分析が行われた。イオンファンタジーのサステナビリティ活動等を分析した結果、『「ファンタジーピープルいきいき度」の改善』、『障がい者雇用』、『快適で安心・安全な遊び場の提供』、『プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減』の4項目のインパクトが選定された。そして、各インパクトに対して KPI が設定された。これらはいずれも、イオンファンタジーのマテリアリティに関する内容である。今後、これら4項目のインパクトに係る KPI 等に対して、モニタリングが実施される予定である。

JCR は、本 PI 評価における包括的分析及びインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。また、本 PI 評価の KPI に基づくインパクトについて、PIF 原則に例示された評価基準に沿って確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該 KPI は、上記のインパクト特定及びイオンファンタジーのサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。さらに、本 PI 評価におけるモニタリング方針について、本 PI 評価のインパクト特定及び KPI の内容に照らして適切であると評価している。したがって、JCR は本 PI 評価において、持続可能な開発目標 (SDGs) に係る三側面 (環境・社会・経済) を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析 (インパクトの特定・評価・モニタリング) が、十分に活用されていると評価している。

(2) 千葉銀行の PI 評価フレームワーク及び本 PI 評価の PIF 原則に対する準拠性

JCR は、千葉銀行の PIF 商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びにイオンファンタジーに対する PI 評価について、PIF 原則に沿って確認した結果、全ての要件に準拠していると評価している。また、本 PI 評価は「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

以上より、JCR は、本 PI 評価が PIF 原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。

* 詳細な意見書の内容は次ページ以降をご参照ください。

第三者意見

評価対象：株式会社千葉銀行の株式会社イオンファンタジーに対する
ポジティブインパクト評価

2024年9月30日
株式会社 日本格付研究所

目次

| | |
|---|--------|
| <要約> | - 3 - |
| I. 第三者意見の位置づけと目的 | - 5 - |
| II. 第三者意見の概要 | - 5 - |
| III. イオンファンタジーに係る PI 評価等について | - 7 - |
| 1. イオンファンタジーの概要 | - 7 - |
| 1-1. 企業概要 | - 7 - |
| 1-2. 事業内容 | - 7 - |
| 1-3. 店舗展開 | - 9 - |
| 2. サステナビリティ方針・推進体制 | - 10 - |
| 2-1. パーパス | - 10 - |
| 2-2. サステナビリティ方針とマテリアリティ | - 12 - |
| 2-3. サステナビリティ推進体制 | - 14 - |
| 2-4. マテリアリティに対する取り組み | - 14 - |
| 3. 包括的分析及びインパクト特定の適切性評価 | - 22 - |
| 3-1. 分析対象事業及び対象エリア | - 22 - |
| 3-2. インパクトリーダーによる分析 | - 22 - |
| 3-3. サプライチェーン分析 | - 23 - |
| 3-4. インパクトの特定 | - 23 - |
| 3-5. JCR によるモデル・フレームワークに示された項目に沿う評価 | - 25 - |
| 4. テーマ及び KPI の設定 | - 27 - |
| 5. 管理体制 | - 31 - |
| 6. JCR による評価 | - 32 - |
| 7. モニタリング方針 | - 35 - |
| 8. モデル・フレームワークの活用状況評価 | - 35 - |
| IV. PIF 原則に対する準拠性等について | - 36 - |
| 1. PIF 原則 1 定義 | - 36 - |
| 2. PIF 原則 2 フレームワーク | - 36 - |
| 3. PIF 原則 3 透明性 | - 38 - |
| 4. PIF 原則 4 評価 | - 38 - |
| 5. インパクトファイナンスの基本的考え方 | - 39 - |
| V. 結論 | - 40 - |

<要約>

本第三者意見は、株式会社千葉銀行（千葉銀行）が株式会社イオンファンタジー（イオンファンタジー）に実施するポジティブインパクト評価（本 PI 評価）に対して、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）の策定した PIF 原則及び資金使途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク（モデル・フレームワーク）への適合性、並びに環境省の ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項(4)に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォース（PIF TF）が纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性を確認したものである。株式会社日本格付研究所（JCR）は、PIF 第 4 原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、独立した第三者機関として、(1)イオンファンタジーに係る本 PI 評価に基づくファイナンスの合理性及び本 PI 評価のインパクト、並びに(2)千葉銀行の PI 評価フレームワーク及び本 PI 評価の PIF 原則に対する準拠性について確認を行った。なお、本第三者意見は 2024 年 9 月 30 日付の本 PI 評価を対象としており、有効期限は本 PI 評価に準じる。

(1) イオンファンタジーに係る本 PI 評価の合理性及び本 PI 評価に基づくファイナンスのインパクト

イオンファンタジーは、1997 年に設立した、イオングループのサービス・専門店事業における中核企業であり、大型ショッピングセンター内における遊戯施設の企画・運営を行っている。「モーリーファンタジー」を主力ブランドとしたファミリー向けアミューズメント施設の運営を行うアミューズメント事業と、大型の遊具や創造力を育む知育玩具などを備える室内遊具施設を運営するプレイグラウンド事業が主要事業である。国内のみならず、中国やアセアン諸国へも店舗展開をしており、2024 年 2 月期末時点の延べ店舗数は 1,100 を超える。2005 年には東京証券取引所第一部上場を果たし、現在は東京証券取引所プライム市場に上場している。

イオンファンタジーは「こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる」をパーパスとして最上位概念に位置付けており、本パーパスに基づき、2022 年にサステナビリティ方針を定めている。イオンファンタジーは方針に定めた価値を持続的に創出していくにあたり、5 つのマテリアリティを特定しており、その推進にあたっては、部署横断型の推進チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置することで、具体的な取り組み内容の検討及び実践を進めている。また、企業活動の中核としてサステナビリティ経営を進めることを目的に、上部組織として「サステナビリティ委員会」を取締役会諮問機関として設置し、取締役会から諮問を受けた内容について協議、答申を行っている。

本 PI 評価では、イオンファンタジーの事業活動全体に対する包括的分析が行われた。イオンファンタジーのサステナビリティ活動等を分析した結果、『「ファンタジーピープルいきいき度」の改善』、『障がい者雇用』、『快適で安心・安全な遊び場の提供』、『プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減』の 4 項目のインパクトが選定された。そし

て、各インパクトに対して **KPI** が設定された。これらはいずれも、イオンファンタジーのマテリアリティに関する内容である。今後、これら 4 項目のインパクトに係る **KPI** 等に対して、モニタリングが実施される予定である。

JCR は、本 **PI** 評価における包括的分析及びインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。また、本 **PI** 評価の **KPI** に基づくインパクトについて、**PIF** 原則に例示された評価基準に沿って確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該 **KPI** は、上記のインパクト特定及びイオンファンタジーのサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。さらに、本 **PI** 評価におけるモニタリング方針について、本 **PI** 評価のインパクト特定及び **KPI** の内容に照らして適切であると評価している。したがって、**JCR** は本 **PI** 評価において、持続可能な開発目標（**SDGs**）に係る三側面（環境・社会・経済）を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）が、十分に活用されていると評価している。

(2) 千葉銀行の **PI** 評価フレームワーク及び本 **PI** 評価の **PIF** 原則に対する準拠性

JCR は、千葉銀行の **PIF** 商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びにイオンファンタジーに対する **PI** 評価について、**PIF** 原則に沿って確認した結果、全ての要件に準拠していると評価している。また、本 **PI** 評価は「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

以上より、**JCR** は、本 **PI** 評価が **PIF** 原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。

I. 第三者意見の位置づけと目的

JCRは、千葉銀行がイオンファンタジーに実施するPI評価に対して、UNEP FIの策定したPIF原則及びモデル・フレームワーク、並びにPIF TFの纏めた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に沿って第三者評価を行った。本PI評価は、千葉銀行及び千葉銀行の承諾を得た他の金融機関が、イオンファンタジーに対しPIFとして実施する複数のファイナンスで参照することが想定されている。PIFとは、SDGsの目標達成に向けた企業活動を、金融機関等が審査・評価することを通じて促進し、以て持続可能な社会の実現に貢献することを狙いとして、当該企業活動が与えるポジティブなインパクトを特定・評価の上、融資等を実行し、モニタリングする運営のことをいう。

PIF原則は4つの原則からなる。第1原則は、SDGsに資する三つの柱（環境・社会・経済）に対してポジティブな成果を確認でき、ネガティブな影響を特定し対処していること、第2原則は、PIF実施に際し、十分なプロセス、手法、評価ツールを含む評価フレームワークを作成すること、第3原則は、ポジティブ・インパクトを測るプロジェクト等の詳細、評価・モニタリングプロセス、ポジティブ・インパクトについての透明性を確保すること、第4原則は、PIF商品が内部組織または第三者によって評価されていることである。

本第三者意見は、PIF第4原則で推奨されている評価の透明性及び客観性確保のため、JCRが独立した第三者機関として、本PI評価の合理性及び本PI評価に基づくファイナンスのインパクト、並びに千葉銀行のPI評価フレームワーク及び本PI評価のPIF原則に対する準拠性を確認し、本PI評価のPIF原則及びモデル・フレームワークへの適合性、並びに「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性について確認することを目的とする。

II. 第三者意見の概要

本第三者意見は、千葉銀行がイオンファンタジーとの間で、2024年9月30日付で実施するPI評価に対する意見表明であり、以下の項目で構成されている。

<イオンファンタジーに係るPI評価等について>

1. イオンファンタジーの概要
2. サステナビリティ方針・推進体制
3. 包括的分析及びインパクト特定の適切性評価
4. テーマ及びKPIの設定
5. 管理体制
6. モニタリング方針

<千葉銀行のPI評価フレームワーク等について>

1. 千葉銀行のPIF商品組成が、UNEP FIのPIF原則及び関連するガイドラインに準拠しているか（プロセス及び商品組成手法は適切か、またそれらは社内文書で定められているかを含む）

2. 千葉銀行が社内で定めた規程に従い、イオンファンタジーに対する PI 評価を適切に組成できているか

Ⅲ. イオンファンタジーに係る PI 評価等について

本項では、イオンファンタジーに係る PI 評価におけるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）の活用状況と、本 PI 評価に基づくファイナンスのインパクト（①多様性、②有効性、③効率性、④倍率性、⑤追加性）について確認する。

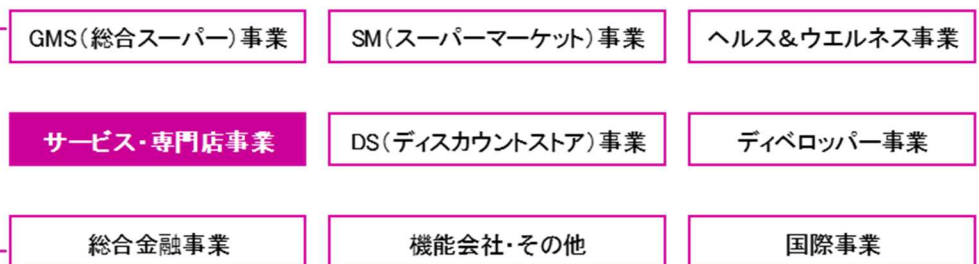
1. イオンファンタジーの概要

1-1. 企業概要

イオングループのサービス・専門店事業における中核企業であり、ファミリー向けを中心としたアミューズメント施設とプレイグラウンド施設の企画・運営を行っている。施設は、日本国内から中国、アセアン諸国にも幅広く展開しており、2024年2月期末時点の店舗数は、1,100 を超える。

会社概要

| | |
|-------|--|
| 企業名 | 株式会社イオンファンタジー |
| 本店所在地 | 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1 |
| 設立 | 1997年2月 |
| 資本金 | 18億10百万円(2024年2月期) |
| 従業員数 | 7,641名(パートアルバイトは8時間換算、2024年2月期中平均) ※連結決算 |
| 事業内容 | ショッピングセンター内「アミューズメント施設」及び「プレイグラウンド」の運営 |



1-2. 事業内容

○アミューズメント事業

「明るく」、「清潔」、「安全・安心」を基本に、ゲームを中心としたアミューズメント施設を運営している。主力ブランドの「モーリーファンタジー」は、12歳以下の子どもとそのファミリーを対象としており、明るい店舗内に「乗り物」や「メダルゲーム」、「カードゲーム」、「クレーンゲーム」など、子どもと家族が夢中になれる様々なあそびを提供している。

定額料金で様々なゲームを楽しめるなど、利用しやすさもあって、多くのファミリーが訪れている。

対象となる世代を広げた派生店舗も展開しており、ティーンズやヤング層を意識した「PALO」では音楽ゲームなども設置しているほか、「モーリーファンタジー」は、中高生からシニア層までの幅広い層をターゲットとしている。



(出所:当社ウェブページ、以下記載のない画像は同じ)

○プレイグラウンド(遊び場)事業

大型の遊具や創造力を育む知育玩具などを備える室内遊具施設を運営している。事業の中心である「キッズーナ」は、ボールプールやエアスライダーなどの大型遊具や“ごっこ遊び”ができる「なりきりコーナー」があるなど、こどもの創造性や社会性を育みながら親子で一緒に楽しめる施設である。また、「スキッズガーデン」は、保育士や幼稚園教諭の有資格者のサポートにより、小さなこどもが一人で遊ぶことができるプレイグラウンドであり、子育て世代から支持を得ている。

2023年にオープンした「ちきゅうのにわ」は、遊びながら地球のおもしろさと大切さを学ぶことができる新しい形態のプレイグラウンドである。施設は冰山や火山、海や森など自然をモチーフに空間が構成され、照明の変化による視覚的な大気の温度差など様々なアプローチで地球や環境問題を表現している。また、SDGsや自然の大切さを学べるワークショップなども定期的開催している。



1-3. 店舗展開

国内ではアミューズメント型の施設が多く、戦略的小型店舗として、幅広い世代に人気の高いクレーンゲームやカプセルトイの専門店の出店も進めている。海外店舗は、2007年より中国とアセアン諸国に展開しており、アセアンでは、プレイグラウンド事業を中心に、イオングループのみならず、現地の有力デベロッパーとも連携して出店を拡大している。

地域別売上高・直営店舗数(2024年2月期)

| | 売上高 | | | | 直営店舗数 | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|-------|
| | (百万円) | うちAM事業 | うちPG事業 | うちその他 | (店) | うちAM事業 | うちPG事業 | うちその他 |
| 国内 | 64,225 | 59,895 | 2,611 | 1,719 | 703 | 690 | 9 | 4 |
| 中国 | 6,527 | 3,759 | 2,332 | 436 | 181 | 107 | 71 | 3 |
| アセアン | 11,006 | 2,884 | 8,122 | 0 | 272 | 105 | 167 | 0 |
| マレーシア | 4,466 | 2,717 | 1,749 | 0 | 118 | 84 | 34 | 0 |
| タイ | 991 | 49 | 942 | 0 | 31 | 10 | 21 | 0 |
| フィリピン | 2,858 | 0 | 2,858 | 0 | 58 | 0 | 58 | 0 |
| インドネシア | 1,706 | 12 | 1,694 | 0 | 35 | 1 | 34 | 0 |
| ベトナム | 983 | 105 | 878 | 0 | 30 | 10 | 20 | 0 |
| 計 | 81,758 | 66,538 | 13,065 | 2,155 | 1,156 | 902 | 247 | 7 |

2. サステナビリティ方針・推進体制

2-1. パーパス

パーパスは、「こどもたちの夢中を育み、“えがお”あふれる世界をつくる」である。「こどもたちの“えがお”」を企業の存在意義の中心に据え、創業時の社是である「遊びを通じて夢と楽しさとふれあいを提案し、地域社会に奉仕しよう」を昇華させたもので、企業の最上位概念に位置付けている。



パーパスは、行動指針である「FANTASY WAY」に沿って実践されている。「FANTASY WAY」は、次世代を担う若手が主体となったプロジェクトチームが中心となって策定したものであり、4つのアクションと1つのメッセージで構成されている。アクションは、「～しよう」という誘い型の提案ではなく、言葉の末尾に「？」がつく問いかけ型にすることで、より実践的な言葉となっている。パーパスの浸透に向けて、「FANTASY WAY」は教育プロ

グラムに組み込まれているほか、その実践度合いを人事評価や表彰制度に反映させている。

FANTASY WAY

4 ACTIONS

「楽しんでる？」
自分を含めた周囲の人が楽しめるよう、何事にも明るく・遊び心を持って取り組もう。

「チャレンジしてる？」
目の前のことに向き合い、そこで生まれる気づきを、新たなチャレンジにつなげよう。

「感謝してる？」
お客さま・取引先さま・ともに働くパートナーを思いやり、感謝を伝え合おう。

「想像してる？」
こどもの“えがお”と安全が守られるよう、お客さま、従業員、いろんな立場になりきって考えよう。

「自信を持っていいんだよ。」

あなたの仕事は、すでにこどもたちの“えがお”につながっている。もっと自信を持って行動しよう。

1 MESSAGE

2024年度からスタートした中期経営計画では、パーパス実現に向けた企業の方向性を示すビジョンとして、「こどもたちの“たのしい”を創造し、『こころ・あたま・からだの成長』を育み続けるファミリー支援企業になる」を掲げ、こどもとその家族に向けた新たな提供価値を基盤とした事業を推進している。



今後の方向性

新たなビジョン

イオンファンタジーの新たなビジョン

こどもたちの
“たのしい”を創造し
「こころ・あたま・からだの
成長」を育み続ける
ファミリー支援企業になる



ビジョン

— こころの成長

- ・ 社会や他人との交流により人間性が豊かになる
- ・ 規律順守、生活習慣、自立、自律心、協調性、意欲、向上心、感情、道徳



— あたまの成長

- ・ 様々な問題に取り組み解決できるようになる
- ・ 知識、技能、思考力、判断力、表現力



— からだの成長

- ・ たくましくいきるための健康や体力を養う
- ・ 瞬発力、敏捷性、巧緻性、持久力、筋力、平行性、柔軟性、適応力



2-2. サステナビリティ方針とマテリアリティ

企業活動の中核として2022年に「サステナビリティ方針」を定め、サステナビリティ経営を進めている。方針では、“えがお”あふれる社会の実現に向けて、事業を通じて「たのしさ」「ふれあい」「ファンタジーピープルのハピネス」「安全・安心」「おもてなし」の5つの価値を創出し、世界中に提供し続けることを目指すとしている。

サステナビリティ方針

私たちイオンファンタジーは、
「こどもと向き合うことは、未来の大人と向き合うこと。すなわち、次の社会をつくること」という信念のもと、こどもたちの夢を育み、“えがお”あふれる世界を目指します。

私たちは事業を通じて創出する価値を、
こどもたちに直接届ける「たのしさ」「ふれあい」「安全・安心」「おもてなし」とこれらの価値をうみだすための「ファンタジーピープルのハピネス」の5つと捉えています。

これら5つの価値を創出し続けるため、私たちはパートナーの皆さまとともに、地球環境の保全や、社会課題の解決、そして「コーポレート・ガバナンスの強化」に取り組み続けます。

| | | |
|------|---|--|
| 重要課題 | 地球環境の保全 ・脱炭素社会の実現 ・循環型社会の実現 ・生物多様性の保全 | 社会課題の解決 ・こどもたちの未来への貢献 ・地域社会とのコミュニケーションの深化 ・従業員がいきいきと働ける組織づくり |
|------|---|--|



方針に掲げた5つの価値を持続的に創出していくにあたり、事業に影響を及ぼす可能性のある重要課題（マテリアリティ）を特定している。マテリアリティは、「こどもたちの未来への貢献」、「従業員がいきいきと働ける組織づくり」、「地域社会とのコミュニケーションの深化」、「脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現」、「コーポレート・ガバナンスの強化」の5つで、特定にあたっては、SDGsなどを参考に社会課題を洗い出し、自社としての重要度とステークホルダーにとっての重要度の2つを軸に検討を進めた。

| | | |
|----------|------------------|---|
| 1 | 課題の抽出 | マテリアリティの特定にあたり、SDGsやグローバルリスクレポートなどを参考に、将来のメガトレンドを踏まえつつ、社会課題を洗い出しました。そのうえで、事業活動におけるリスク及び機会の観点で課題の絞り込みを行い、自社にとっての重要な社会課題の抽出を行いました。 |
| 2 | ステークホルダーにとっての重要性 | ステークホルダーにとっての重要性において、参考指標には、グローバル・コンパクトの10原則、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)、DJSIやFTSEなどのESG評価項目などから整理しました。また、自社の事業活動において重要と考えるビジネスパートナーや競合他社などの情報も参考にしました。 |
| 3 | 企業にとっての重要性 | 各社会課題について、機会とリスクの両面から、経営層各々が自社にとっての重要性を評価しました。その結果をもとに、経営層でディスカッションを行い、主要な6テーマに分類しました。 |
| 4 | 重要課題の決定 | 取締役会による承認を経て、自社で優先的に取り組むべき社会課題を「重要課題」として決定しました。決定後、重要課題の実行・進捗管理をするために体制を設置し、各課題ごとの目標(KPI)の設定と、取り組み内容の検討を行いました。 |

マテリアリティの推進にあたっては、それぞれに部署横断型の推進チーム「サステナビリティ倶楽部」を設置し、具体的取り組み内容の検討と実践を進めている。倶楽部は、公募で集まったサステナビリティへの意識の高い10名程度の人員で構成されており、積極的な取り組みがサステナビリティ経営の実行性を高めている。

- ①子どもたちの未来への貢献倶楽部 ②従業員がいいききと働ける組織づくり倶楽部 ③地域社会とのコミュニケーションの深化倶楽部
 ④脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現 ⑤コーポレート・ガバナンスの強化倶楽部

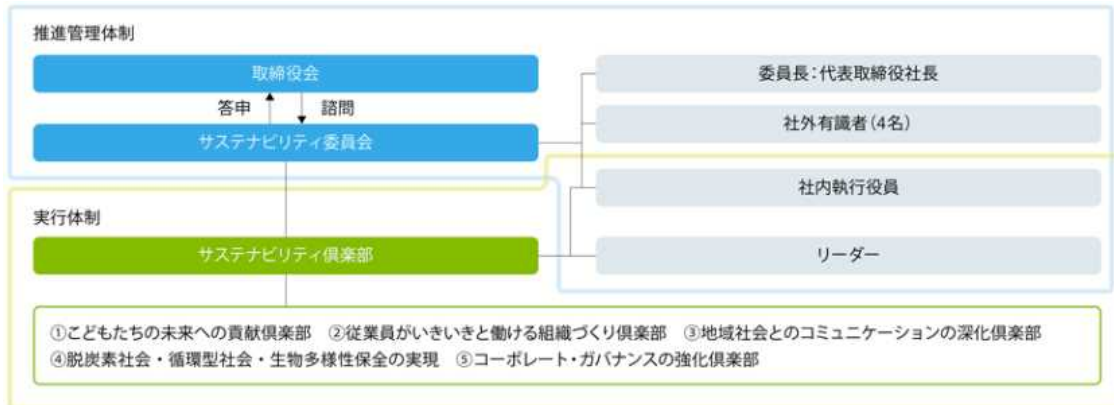
マテリアリティ(重要課題)

| マテリアリティ | ありたい姿 (2050年) | 中期目標 (2030年) | 取り組み |
|---------|------------------------|--|---|
| S | 子どもたちの未来への貢献 | 子どもたちの“えがお”をひろげる新たな機会の創出 インクルーシブな遊び場の満足度75% 誰でもあそべる機会の社会的インパクト75% ※インクルーシブな社会実現に向けて、重要性的理解度比率 | 障がいをもったおこさまでも遊べる遊戯機械・遊具の拡大 障がいをもったおこさまも参加できる企画の推進 お客さまとともに、子どもの権利を守る活動を支援 |
| | 従業員がいいききと働ける組織づくり | すべてのファンタジーピープルが仕事もあそびも夢中になれる会社 ファンタジーピープルいいきき度75% ※いいきき度＝サーベイ項目のうち、「働きがい」「働きやすさ」に関する項目の平均肯定回答率 | ダイバーシティの推進 (多様な経歴を活かすための教育・お互いを知る場づくり) 働き方の改革 サーベイの実施と、改善に向けた取り組み |
| | 地域社会とのコミュニケーションの深化 | たのしさとふれあいの場の提供を通じて、“えがお”あふれる地域社会 地域・社会貢献活動により“えがお”にした人数500万人 ※2022年度～2030年度の国内外のべ人数 | 社会福祉施設への訪問 社会福祉施設の子どもたちのご招待会の実施 地域の行政・団体・企業などと連携し、地域の方々に“えがお”にする取り組みの実施 |
| E | 脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現 | 【定量目標】 2040年に店舗で排出するCO ₂ 等を総量で実質ゼロを目指します 【ありたい姿】 あそびを通じて地球環境を大切に する事業・機会を創造し、地球の豊かさを未来の子どもたちと育む社会 | ①事業におけるエネルギー由来のCO ₂ 排出量64%減(2018年比) ※単位は売上単位 一省エネ比率10% 一再エネ比率60% ②店舗で使用するプラスチック総量30%削減* ※2019年度比主要6種(カプセル含む) ③店舗で廃棄する遊戯機械・景品廃棄率10%未満 ④環境保全や生物多様性の保全についてまなぶ子どもの数500万人 ※2024年度～2030年度の国内外のべ人数 ⑤人間と自然が共生し生物多様性を保全する場・機会づくり |
| | コーポレート・ガバナンスの強化 | ステークホルダーと信頼を築き、ファンタジーピープルを守り、持続的成長できる会社 | コーポレートガバナンスコードの実践体制の強化 コンプライアンス研修の実施(国内・海外) 海外子会社のガバナンスの強化 人権デュー・ディリジェンスの実施 |

※国内外表記以外は、国内事業のみの目標・取り組み

2-3. サステナビリティ推進体制

サステナビリティ経営の目標数値や取り組みの進捗を管理することを目的に、取締役会諮問機関として「サステナビリティ委員会」を設置している。委員会は、代表取締役社長を委員長として、委員の3分の1以上を社外の有識者から選任し、取締役会から諮問を受けた内容について協議、答申している。



2-4. マテリアリティに対する取り組み

○従業員がいきいきと働ける組織づくり

こどもたちの“えがお”をつくることを存在意義とする会社として、従業員が幸せや楽しさを感じて働き、笑顔でこどもたちを迎えられる環境をつくることがパーパスの実現の鍵を握るとして、従業員が働きやすい職場づくりやダイバーシティの推進などに力を入れている。

(働きやすい職場づくり)

従業員のライフステージが変化しても安心して働き続けられるように、結婚や出産などにより退職した職員の復職制度や、子育てなどを理由とした転居の停止を申告できる制度を設けている。子育てと仕事の両立の支援では、こどもが病気などで保育園に預けられないときに利用した一時保育費用の補助制度や配偶者の出産の際に取得できる「ハグくみ休暇」などを導入している。

現在は、「従業員がいきいきと働ける組織づくり倶楽部」が福利厚生 of 拡充、検討に取り組んでおり、2023年には、倶楽部の提案により、育児休業取得時に最長3か月分、取得前の給与の13%相当の支援金を支給する「ハグくみ支援金」を創設したほか、無給休暇の適用範囲を不妊治療、更年期障害、通院・治療、家族の体調不良まで拡大した。

2022年度には男性の育児休暇取得率100%を達成しており、次世代育成支援対策推進法に基づく「プラチナくるみん」の認定を2023年6月に取得している。

「働きやすい職場」の実現に向けた取り組み

| 取り組み時期 | 内容 | |
|--------|-------------|--|
| 2016年 | リ・エントリー制度 | 配偶者の転居・結婚・出産・介護などを理由に退職した場合、3年以内であれば復職が可能となる制度 |
| 2016年 | 転居一時停止制度 | 全国転勤の社員が子育てや介護などの理由により一時的に転居停止を申告できる制度（通算6年まで） |
| 2017年 | 一時保育利用補助制度 | 子どもが病気や病気回復期などで保育園に預けられない時に利用した一時保育費用を補助。2022年より日・祝日の利用も可能とし、さらに条件緩和 |
| 2018年 | RECOG | 社員が褒め合うことでポイントがたまるアプリを導入。ポイントは様々なメニューと交換できる |
| 2022年 | ハグくみ休暇 導入 | 配偶者が出産した際に、出産より1年以内に連続 5日間を上限に取得できる年間付与日数外の特別有給休暇「ハグくみ休暇」を導入 |
| 2022年 | ドナー休暇 導入 | 骨髄または末梢血幹細胞の提供をする際に取得できる |
| 2023年 | ハグくみ支援金の創設 | 育休取得時に最長3カ月分、取得前の給与の13%相当の支援金を支給。育児休業給付金と組み合わせると給与の実質 80%補償となる |
| | 特別休暇の適用範囲拡大 | 取得要件として不妊治療、更年期障害、通院・治療、家族の体調不良を新たに加えた |

（ダイバーシティ経営）

女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる。具体的には、管理職の意識改革のための「管理職向けセミナー」の実施をはじめとして、女性管理職を対象に役員が助言するメンター制度の導入や女性リーダーを中心とした座談会の実施、子育てしながら働く女性職員の情報交換会の開催などであり、2023年度における管理職に占める女性労働者の割合は 53.5%となっている。

これらの取り組みから、2023年1月に千葉県男女共同参画推進事業所表彰の「千葉県知事賞」を受賞し、さらに2024年5月には、女性活躍推進法に基づく「女性活躍を推進する企業」として、「プラチナえるぼし」に認定されている。



（障がい者雇用）

障がい者雇用は 2008 年度から開始した。現在は、2017 年 3 月に設置した専任部署「ジ

「ジョブサポート」が採用や配属部署への理解促進、配属後の定着と戦力化に向けたサポートなどを行っている。採用にあたっては、障がい者の不安感を和らげるため、支援機関との協力により、見学や実習、トライアル雇用制度などを活用している。

業務は、単純作業が中心の「定型業務」及び難易度の高い専門業務を行う「担当業務」、その中間地点となる「スポット業務」と、個人の能力に応じたものとなっており、入社1カ月、3カ月、半年経過後に負担感や、やりがいなどをヒアリングすることによって、定着率の向上を図っている。2021年度からは、障がい者のチームリーダーへの登用やパート社員の正社員登用といった取り組みをスタートした。2023年度の障がい者雇用率は、法定雇用率を上回る3.4%となっている。

（ファンタジーピープルいきいき度）

イオンファンタジーでは、働くすべての人々を社員と呼ばず、ファンタジーピープルと呼んでいる。2022年度から、ファンタジーピープルの働きがいなど「いきいき度」を数値で把握するサーベイを開始した¹。サーベイは、外部専門家の知見をもとに「いきいき」の構成要素ごとに設計したもので、「残業の多さ」、「成長できる環境か」、「評価は適切と感じるか」など14の質問からなっている。イオンファンタジーでは、回答結果を踏まえ、研修の実施などにより、「いきいき度」75%以上を目指している（2022年度：61.6%）。

人的資本にかかる各種指標の推移

| | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|--------------------|--------|--------|--------|
| 管理職に占める女性従業員の割合(%) | 53.1 | 51.6 | 53.5 |
| 男性育児休業取得率(%) | 35.7 | 100.0 | 100.0 |
| 障がい者雇用率(%) | 2.9 | 3.3 | 3.4 |

〇こどもたちの未来への貢献

一人でも多くのこどもが“えがお”で未来を夢見て生きられる社会を目指して、快適で安心・安全な遊び場の提供やこどもの権利を守る活動などに取り組んでいる。

（快適で安心・安全な遊び場の提供）

こどもたちに快適で安全・安心な遊び場の提供を進めており、2022年度には店舗と遊具・遊戯機械の全てについて安全基準の確認・評価を行った。事故防止に向けては、「コーポレート・ガバナンスの強化倶楽部」が中心となって安全対策の管理など各種取り組みを行っている。

¹ 調査は2年に1回実施しており、次回は2025年4月に2024年度の調査を実施する予定。

今後は、インクルーシブな社会の実現に向けて、障がいをもった子どもでも遊べる遊具・遊戯機械の拡大などを進める。既に障がい者割引制度を導入し、顧客の声を集めながら対象年齢の撤廃など制度の充実化に取り組んでいる。遊具では、姿勢が保てない子どもでも安全に乗ることができる「ハーネス付きブランコ」などの導入を進めている。インクルーシブな遊具を導入した店舗では、顧客アンケートを継続的に実施し、満足度の向上を図っていく。

(一人でも多くの子どもにあそび・まなびを届ける事業)

2003年より、子どもたちの夢の実現をサポートする活動「ララゆめ ～ララちゃんが夢をお手伝いします！」を実施している。全国の子どもたちから発想豊かで自由な夢を募集、選考し、その実現を、「モーリーファンタジー」のオリジナルキャラクターである「ララちゃん」がお手伝いするものであり、これまでに実施した回数は300を超える。職業体験など様々な子どもたちの夢の実現にあたっては、イオンのグループ他社が協力企業として参加している。

(子どもの権利を守る)

2012年より、アミューズメント施設、プレイグラウンドなど運営する店舗の売上の一部を子どもの支援活動として寄付する「あそんで募金」を実施している。2023年度は、世界1,136の店舗で集まった1,000万円を、事業を展開する世界7カ国の子ども支援活動を行うNPOや財団法人の活動に寄付している。

(環境社会について遊び、学びができる機会づくり)

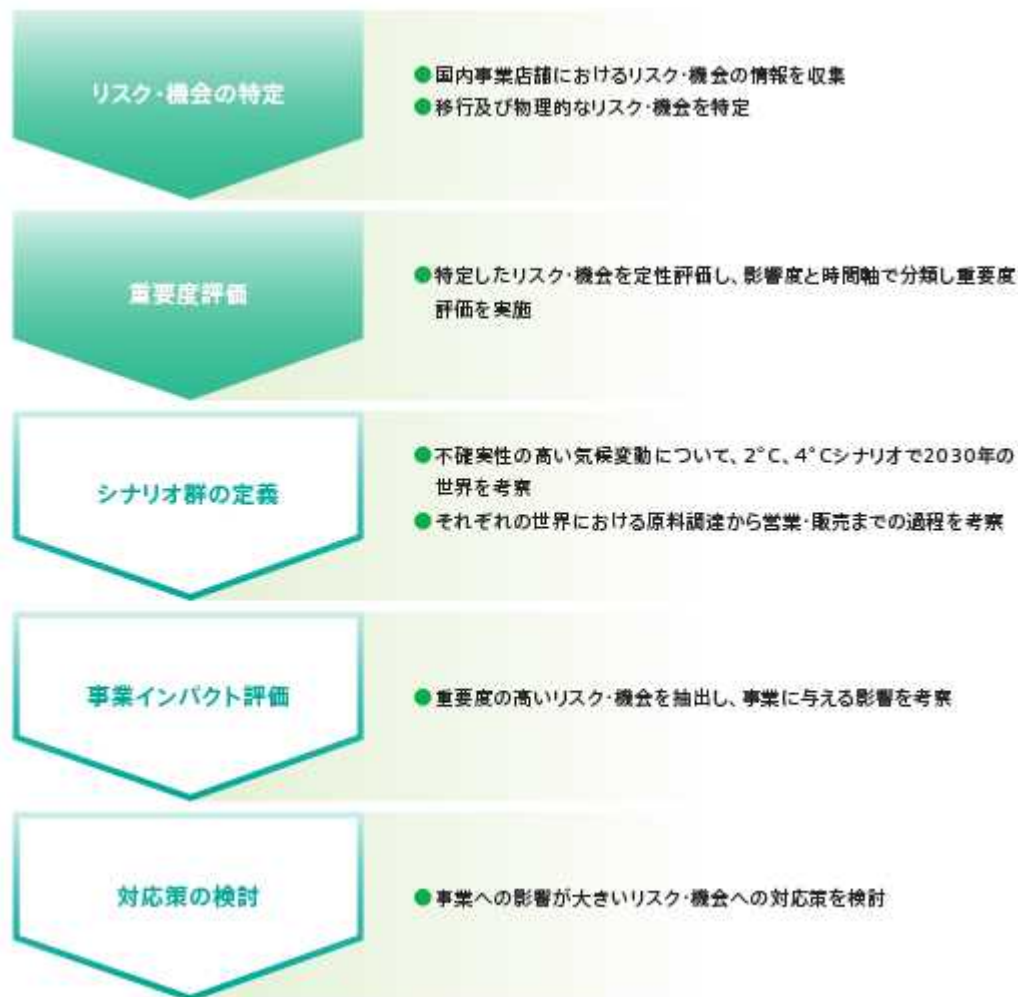
ゲームを通じて環境問題について遊んで学べる遊戯機械・遊具の開発や環境系イベントなどへの出展を進めている。2021年に開発した「ぐるぐるリサイクルん」は、街のごみ収集をしながら、いろいろなごみに見立てたボールを「かみくず」や「プラスチック」などに分別していく「ごみ分別・リサイクル体験ゲーム」で、全国の店舗での設置を進めている。この取り組みは、環境省が主催するPlastics Smart (プラスマ) アクションに登録されている。また、「えこらんエコロジーバス」は、一般社団法人電気自動車普及協会の監修による運転シミュレーションゲームで、バスに乗り込む前にエネルギーをチャージし、画面に沿って運転操作をして街や山の中を走り、エコ運転度を測定する。店舗のほか地域のお祭りなどのイベントにも出展しており、2023年には、大阪府豊中市の豊島体育館で開催された「とよなか市民環境展 2023」と福島県双葉郡浪江町で開催された「復興なみえ町十日市祭」に参加している。



○脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現

(体制)

持続可能な社会と企業成長の両立を目指し、2022年9月にTCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に賛同を表明し、気候変動問題が事業活動に対して及ぼす影響など、リスクと機会の分析を進め、その結果を経営戦略や取り組みに反映するとともに、開示情報の充実に努めている。



ガバナンス

代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」の下部組織に「気候変動への対応倶楽部」を設置し、気候変動に関する取り組みや目標値について実行・進捗管理し、委員会、取締役会に報告している。

戦略

気候変動に関わるリスクは、こどもの未来、自社の事業成長に長期間にわたり影響を及ぼ

すものであると捉え、気候変動がもたらすリスク・機会の特定を実施し、経営層で重要度の評価を行った。

リスク

| 大分類 | 中分類 | 世の中の変化 | 当社への影響 | 影響の大きさ |
|-------|--------|-------------|---|--------|
| 移行リスク | 政策・法規制 | 環境に関する税制・規制 | 炭素税等温室効果ガス排出規制政策の影響を受け、仕入原価や資材等が高騰し、コストの増加 | 中 |
| | | | 炭素税等導入による税負担額の増加 | 小 |
| | 市場・技術 | エネルギー単価上昇 | エネルギー利用の規制等の影響を受け、店舗の営業に関する制限(営業時間等)を受けることによる減収 | 中 |
| | | | エネルギー単価が上昇することによるコストの増加 | 小 |
| 物理リスク | 急性 | 台風・豪雨の激甚化 | 異常気象の頻度と規模の拡大がもたらす店舗・従業員等への補填補修にかかるコストの増加 | 大 |
| | | | 異常気象の頻度・規模の拡大がもたらす店舗の休業・時短営業の発生による減収 | 大 |
| | 慢性 | 平均気温の上昇 | 空調等の稼働時間が増加し、必要なエネルギーも増加することによるコストの増加 | 小 |

機会

| 大分類 | 中分類 | 世の中の変化 | 当社への影響 | 影響の大きさ |
|--------------------------------|---------|--------------------|---|--------|
| 機会 | 資源の効率性 | 省エネ・再エネ推進 | 既存遊戯機械や店舗設備等の省エネルギー化対応を推進することによる営業コストの削減 | 小 |
| | 製品・サービス | 気候への対応ニーズに対応した開発 | 環境を意識した遊戯機械・遊具の開発・品揃えが拡大することによる収益機会の拡大 | 中 |
| | | | 「消費電力の低い省エネ業態」を専門店化・拡大することによる収益拡大とコスト低減の両立 | 小 |
| | 市場 | 環境意識の高まり消費行動のエコシフト | 「インドアプレイグラウンド事業」における接客力等オペレーションの競争力強化による収益の拡大 | 大 |
| 環境意識に対応した新たな事業や業態の開発による成長機会の拡大 | | | 大 | |

リスク管理

特定したリスクと機会について、「脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現倶楽部」において議論・検討し、サステナビリティ委員会やリスク管理分科会などで進捗管理を行っている。

指標と目標

気候変動関連リスク・機会を管理するための中期指標として Scope1・2（国内）における温室効果ガス排出量を定めている。売上高億円あたりを単位とし、2018 年度を基準年として、30%管理削減する中期目標を設定している。

（プラスチック削減）

顧客向けの景品袋において、2021 年 1 月までに、化石資源由来原料の素材からバイオマプラスチックを 25%以上配合した素材への切り替えを完了した。さらに 2024 年 4 月からは、配布を有料化することでプラスチック使用量の削減に努めている。クレーンゲームの景品の中に入れて使用する資材クリアケースとピローケースでは、顧客が不要になったものについて、店舗スタッフの呼びかけによる回収を行っており、回収率は 100%に近い。

カプセルトイでは、使用済みカプセルに新しいトイを入れて再販売する「リユース」の取り組みに加え、「リサイクル」活動にも力を入れている。2023 年には、使用済みカプセルを使って「ちきゅうの優しいクリアファイル」を製作した。より多くのこどもたちにリサイクルを身近に感じてもらうことを狙いとして、プレイグラウンド施設などにおいて配布している。



バイオプラスチック製景品袋



クリアファイル

表



クリアファイル

裏

（リサイクル）

店舗で不要になった遊戯機械の廃棄率を減らすために、社内での再利用のほか、他社への売却による再利用、資源としての再利用などに取り組んでいる。

社内では、メダルゲーム機や体感ゲーム機の店舗間ローテーションにより、顧客に対する新鮮さを保ちつつ、使用期間を延ばしている。目新しさが薄れた機械などは、中古ゲーム機を扱う業者を通じて他社での利用を促している。また、廃棄することとなったゲーム機でも、内部に資源品があれば、捨てずに再利用している。

(CO2)

Scope1・2 (国内) における温室効果ガス排出量を 2040 年にゼロにする目標を掲げ、2018 年度を基準年として、2030 年までに 64%削減する中間目標を設定している。目標達成に向けて、国内で運営するアミューズメント施設に設置した遊戯機械の照明の LED 化を完了しており、2023 年度までに温室効果ガス排出量を 2018 年比で約 3 割削減した。LED 化にあたっては、切り替え工事を実施するために必要な電気工事士の取得を社内で奨励し、工事の全てを社内スタッフが行った。2023 年度からは、切り替え工事により培った知識や経験をグループ他社へ共有していく取り組みを始めている。

今後は、節電、省エネの励行とともに再生エネルギー由来の電力源への切り替えを進めることで、温室効果ガス排出量の削減を図っていく。



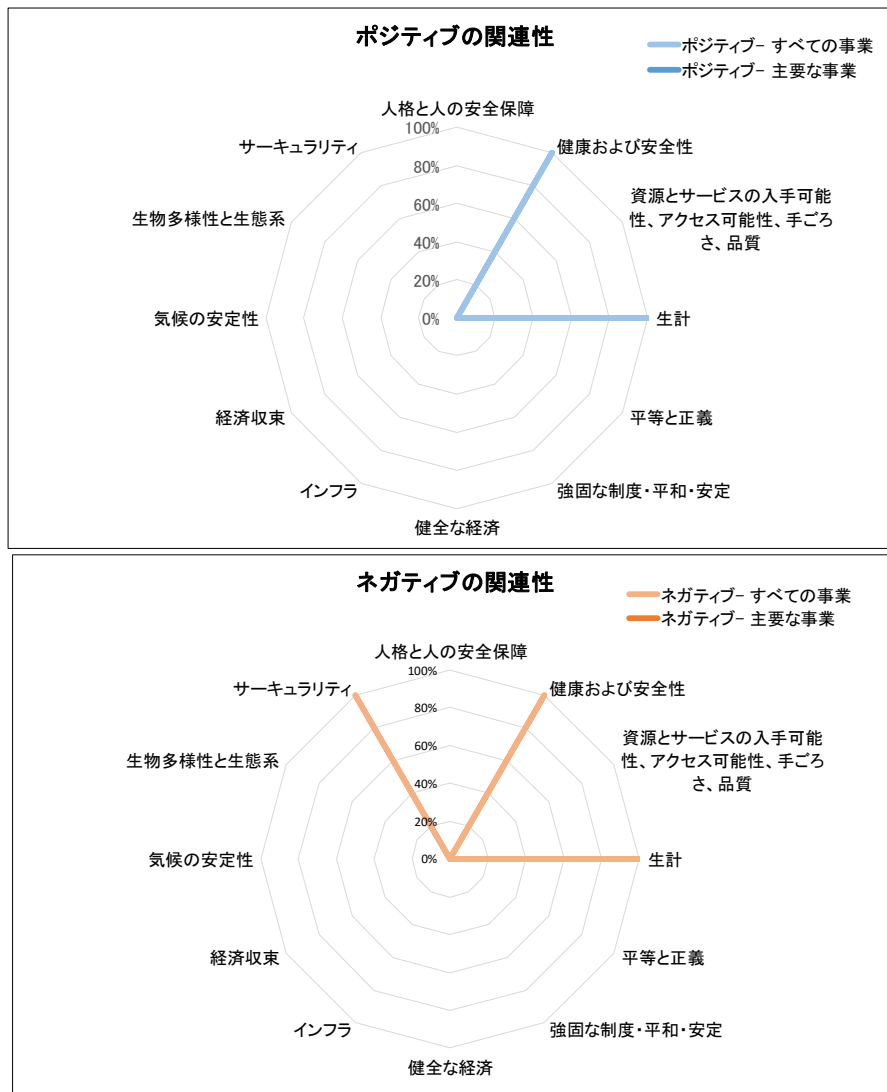
3. 包括的分析及びインパクト特定の適切性評価

3-1. 分析対象事業及び対象エリア

事業活動全体に対する包括的分析を実施した。対象とした事業セグメントは、全体の売上高の 97%を占めるアミューズメント事業とプレイグラウンド事業である。エリアは、店舗を展開する日本、中国、アセアン諸国：マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナムを対象とした（それぞれの売上高、店舗数は 9 ページ「地域別売上高・店舗数」に記載）。

3-2. インパクトレーダーによる分析

UNEP FI が提供する国際的な分析ツールでは、イオンファンタジーが属する業種のインパクトトピックとして、「健康および安全性」（ポジティブ、ネガティブ）、「雇用」（ポジティブ）、「賃金」（ポジティブ、ネガティブ）、「社会的保護」（ネガティブ）、「廃棄物」（ネガティブ）が確認された。

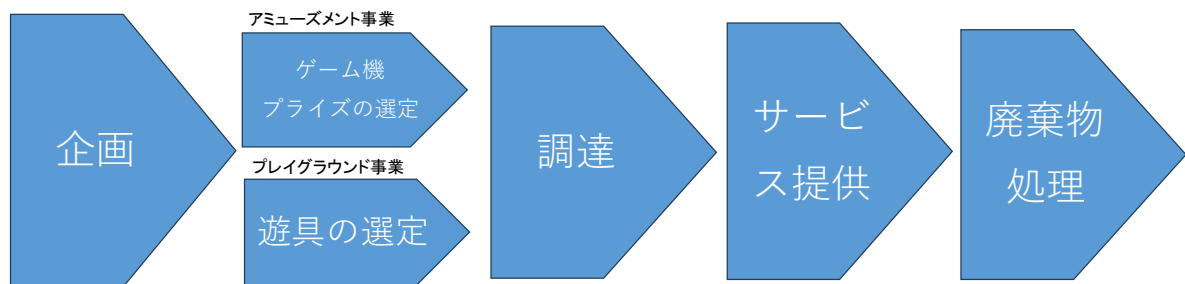


(出所:UNEP FI分析ツールをもとにちばぎん総合研究所が作成)

3-3. サプライチェーン分析

イオンファンタジーの事業セグメントにおけるサプライチェーンは以下の通りである。社会面でのネガティブ・インパクトとして、施設を運営するにあたっての「安全性」の確保や、労働条件など「雇用」、「社会的保護」が特定される。環境面のネガティブ・インパクトでは、使用済となったゲーム機や遊具の「廃棄物」の取り扱いが特定される。

イオンファンタジーでは、これらのネガティブ・インパクトを低減するため、「快適で安心・安全な遊び場の提供」、「従業員がいきいきと働ける組織作り」、「リサイクル」を進めている。



3-4. インパクトの特定

3-1～3-3の分析を踏まえ、インパクトを特定した。イオンファンタジーでは、パーパスに基づきアミューズメント事業及びプレイグラウンド事業を展開しており、安全性に配慮して、こどもたちの“えがお”あふれる世界を作る取り組みを今後も継続することから、「健康および安全性」（ポジティブ）はインパクトとして特定しているが、KPIは設定しない。

物価動向や業績などを鑑みてベースアップに柔軟に対応していくことから、「賃金」（ポジティブ、ネガティブ）はインパクトとして特定しない。

イオンファンタジーでは、マテリアリティ「従業員がいきいきと働ける組織づくり」において、2030年までに男性育児休暇取得率100%達成を掲げている。この目標は、2022年度から2年連続達成しており、今後も従業員がいきいきと働けるような福利厚生、手当の拡充に取り組んでいくことから、「社会的保護」（ネガティブ）は、インパクトとして特定するが、KPIは設定しない。

| インパクトエリア | インパクトトピック | 既定値 | | 特定したインパクト | |
|-------------------------------|------------|-------|-------|-----------|-------|
| | | ポジティブ | ネガティブ | ポジティブ | ネガティブ |
| 人格と人の安全保障 | 紛争 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 現代奴隷 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 児童労働 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | データプライバシー | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 自然災害 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 健康および安全性 | - | 100% | 100% | 100% | 100% |
| 資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質 | 水 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 食料 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | エネルギー | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 住居 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 健康と衛生 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 教育 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 移動手段 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 情報 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | コネクティビティ | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 文化と伝統 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | ファイナンス | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 生計 | 雇用 | 100% | 0% | 100% |
| 賃金 | | 100% | 100% | 0% | 0% |
| 社会的保護 | | 0% | 100% | 0% | 100% |
| 平等と正義 | ジェンダー平等 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 民族・人種平等 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 年齢差別 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | その他の社会的弱者 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 強固な制度・平和・安定 | 法の支配 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 市民的自由 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 健全な経済 | セクターの多様性 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 零細・中小企業の繁栄 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| インフラ | - | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 経済収束 | - | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 気候の安定性 | - | 0% | 0% | 0% | 0% |
| 生物多様性と生態系 | 水域 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 大気 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 土壌 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 生物種 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 生息地 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| サーキュラリティ | 資源強度 | 0% | 0% | 0% | 0% |
| | 廃棄物 | 0% | 100% | 0% | 100% |

(出所: UNEP FI分析ツールをもとにちばぎん総合研究所が作成)

3-5. JCRによるモデル・フレームワークに示された項目に沿う評価

JCRは、本PI評価における包括的分析及びインパクト特定の内容について、モデル・フレームワークに示された項目に沿って以下のとおり確認した結果、適切な分析がなされていると評価している。

| モデル・フレームワークの確認項目 | JCRによる確認結果 |
|--|--|
| 事業会社のセクターや事業活動類型を踏まえ、操業地域・国において関連のある主要な持続可能性の課題、また事業活動がこれらの課題に貢献するかどうかを含めて、事業環境を考慮する。 | 事業セグメント・エリア、サプライチェーンの観点から、イオンファンタジーの事業活動全体に対する包括的分析が行われ、インパクトエリア/トピックが特定されている。 |
| 関連する市場慣行や基準（例えば国連グローバル・コンパクト10原則等）、また事業会社がこれらを遵守しているかどうかを考慮する。 | イオンファンタジーは、2022年9月にTCFD提言への賛同を表明し、気候変動が事業に与える影響（リスクと機会）についての分析をもとに、リスクの低減及び機会の獲得に向けた対策に取り組んでいる。また、2024年5月には、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が特に優良であり、「プラチナえるぼし」認定を受けている。 |
| CSR報告書や統合報告書、その他の公開情報で公に表明された、ポジティブ・インパクトの発現やネガティブ・インパクトの抑制に向けた事業会社の戦略的意図やコミットメントを考慮する。 | ウェブサイト等において公表されている内容等を踏まえ、インパクトエリア/トピックが特定されている。 |
| グリーンボンド原則等の国際的イニシアティブや国レベルでのタクソノミを使用し、ポジティブ・インパクトの発現するセクター、事業活動、地理的位置（例えば低中所得国）、経済主体の種類（例えば中小企業）を演繹的に特定する。 | UNEP FIのインパクト分析ツール、グリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則のプロジェクト分類等の活用により、インパクトエリア/トピックが特定されている。 |
| PIF商品組成者に除外リストがあれば考慮する。 | イオンファンタジーは、千葉銀行の定める融資方針等に基づく不適格企業に該当しないことが確認されている。 |

| | |
|--|--|
| <p>持続可能な方法で管理しなければ、重大なネガティブ・インパクトを引き起こし得る事業活動について、事業会社の関与を考慮する。</p> | <p>イオンファンタジーの事業で想定し得る重要なネガティブ・インパクトとして、CO2排出量、障がい者雇用等が特定されている。これらは、イオンファンタジーのマテリアリティやサステナビリティに関する主要方針等で抑制すべき対象と認識されている。</p> |
| <p>事業会社の事業活動に関連する潜在的なネガティブ・インパクトや、公表されている意図と実際の行動（例えばサプライチェーンの利害関係者に対してや従業員の中での行動）の明らかな矛盾を特定するため、考え得る論点に関する利用可能な情報を検証する。</p> | <p>千葉銀行は、原則としてイオンファンタジーの公開情報を基にインパクトエリアトピックを特定しているが、重要な項目に関しては、その裏付けとなる内部資料等の確認及びヒアリングの実施により、手続きを補完している。なお、JCRはちばぎん総合研究所の作成したPI評価書を踏まえてイオンファンタジーにヒアリングを実施し、開示内容と実際の活動内容に一貫性があることを確認している。</p> |

4. テーマ及び KPI の設定



今回特定されたインパクトの増大・緩和に向けて、イオンファンタジーは以下の取り組み方針を定め、それぞれに KPI を設定した。

| インパクトカテゴリ | 取り組み内容 | インパクトエリア | インパクトトピック | インパクト区分 | KPI・目標 |
|-----------|-----------------------------|--------------|------------------|-----------------------------|--|
| 社会 | 「ファンタジーピープルいきいき度」の改善 | 健康および安全性 | - | ネガティブ・インパクト | 2030年までに「ファンタジーピープルいきいき度」を75%以上とする (「ファンタジーピープルいきいき度」: 2022年度61.6%) |
| 社会 | 障がい者雇用 | 生計/ 平等と正義 | 雇用/ その他の社会的弱者 | ポジティブ・インパクト/ ネガティブ・インパクト | 2030年までに障がい者雇用率を5%以上とする (障がい者雇用率:2023年度3.4%) |
| 社会 | 快適で安心・安全な遊び場の提供 | 平等と正義 | その他の社会的弱者 | ネガティブ・インパクト | 2030年までにインクルーシブな遊び場の満足度を75%以上とする |
| 自然環境 | プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減 | サーキュラリティ | 廃棄物 | ネガティブ・インパクト | ①2030年までに店舗で使用するプラスチック総量を2019年度比30%以上削減する (店舗で使用するプラスチック総量: 2019年度69.4トン) ②2030年までに店舗で廃棄する遊戯機械・景品の廃棄率を10%未満とする (店舗で廃棄する遊戯機械・景品の廃棄率:2023年11.4%) |

※設定したKPIのうち、目標年度までに達成したものは再度目標を設定する

| | |
|-------------|---|
| インパクトエリア | 健康および安全性 |
| インパクトトピック | - |
| 関連するマテリアリティ | 従業員がいきいきと働ける組織づくり |
| インパクト区分 | ネガティブ・インパクト |
| 取り組み内容 | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 「ファンタジーピープルいきいき度」の改善 |
| KPI | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 2030年までに「ファンタジーピープルいきいき度」を75%以上とする (「ファンタジーピープルいきいき度」: 2022年度61.6%) |
| 対応するSDGs |   |

| | |
|-------------|---|
| インパクトエリア | 生計／平等と正義 |
| インパクトトピック | 雇用／その他の社会的弱者 |
| 関連するマテリアリティ | 従業員がいきいきと働ける組織づくり |
| インパクト区分 | ポジティブ・インパクト／ネガティブ・インパクト |
| 取り組み内容 | 【ポジティブ・インパクトの増大】／【ネガティブ・インパクトの緩和】 障がい者雇用 |
| KPI | 【ポジティブ・インパクトの増大】／【ネガティブ・インパクトの緩和】 2030年までに障がい者雇用率を5%以上とする (障がい者雇用率: 2023年度3.4%) |
| 対応するSDGs |   |

| | |
|-------------|--|
| インパクトエリア | 平等と正義 |
| インパクトトピック | その他の社会的弱者 |
| 関連するマテリアリティ | こどもたちの未来への貢献 |
| インパクト区分 | ネガティブ・インパクト |
| 取り組み内容 | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 快適で安心・安全な遊び場の提供 |
| KPI | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 2030年までにインクルーシブな遊び場の満足度を75%以上とする |
| 対応するSDGs |  |
| インパクトエリア | サーキュラリティ |
| インパクトトピック | 廃棄物 |
| 関連するマテリアリティ | 脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現 |
| インパクト区分 | ネガティブ・インパクト |
| 取り組み内容 | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減 |
| KPI | 【ネガティブ・インパクトの緩和】 ①2030年までに店舗で使用するプラスチック総量を2019年度比30%以上削減する (店舗で使用するプラスチック総量:2019年度69.4トン) ②2030年までに店舗で廃棄する遊戯機械・景品の廃棄率を10%未満とする (店舗で廃棄する遊戯機械・景品の廃棄率:2023年11.4%) |
| 対応するSDGs |  |

本 PI 評価によるイオンファンタジーの取り組みは、SDGs の 17 のゴールと 169 のターゲットに以下のように関連している。

| インパクトエリア | 対応するSDGsとゴール | |
|-----------------------|--|--|
| 健康および安全性 ／生計／平等と正義 |  | 8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。 |
| 健康および安全性 ／生計／平等と正義 |  | 10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。 |
| サーキュラリティ |  | 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。 |

5. 管理体制

本 PI 評価で設定した KPI の進捗状況については、イオンファンタジーと千葉銀行、ちばぎん総合研究所の担当者が年に 1 回以上、定期的な場を設けて情報共有する。

また、PI 評価の評価書の有効期限や PI 評価の内容が更新される時などもモニタリングを実施する。なお、PI 評価の有効期限は、「PI 評価書の納品後 3 年間」または「PI 評価書納品後に取り組んだ個別 PIF の融資期限」のいずれか遅い方までとする。

6. JCRによる評価

JCRは、本PI評価のKPIに基づくインパクトについて、PIF原則に例示された評価基準に沿って以下の通り確認した結果、多様性・有効性・効率性・追加性が期待されると評価している。当該KPIは、上記のインパクト特定及びイオンファンタジーのサステナビリティ活動の内容に照らしても適切である。

① 多様性:多様なポジティブ・インパクトがもたらされるか

本PI評価に基づくファイナンスは、イオンファンタジーのバリューチェーン全体を通して、多様なポジティブ・インパクトの発現及びネガティブ・インパクトの抑制が期待される。

各KPIが示す4つのインパクトは、以下の通りそれぞれ幅広いインパクトエリア/トピックに亘っている。

- (1) 「ファンタジーピープルいきいき度」の改善
「健康および安全性」に係るネガティブ・インパクト
- (2) 障がい者雇用
「雇用」に係るポジティブ・インパクト
「その他の社会的弱者」に係るネガティブ・インパクト
- (3) 快適で安心・安全な遊び場の提供
「その他の社会的弱者」に係るネガティブ・インパクト
- (4) プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減
「廃棄物」に係るネガティブ・インパクト

これらをバリューチェーン全体で見ると、例えば、サービスの提供段階ではバイオマスプラスチックを配合した景品袋の提供並びに有料化によるプラスチック総量の削減、廃棄物処理段階では遊戯機械の社内再利用、他社売却による再利用等を通じて、廃棄物削減のインパクトをもたらすことが期待される。

またイオンファンタジーはこどもたちに快適で安全・安心な遊び場の提供を進めており、誰もが遊べるインクルーシブな遊具・遊戯機械の提供拡大を進めている。そして導入店舗において継続的な顧客アンケートを実施し、インクルーシブな遊び場の満足度向上を図っていく方針である。

② 有効性:大きなインパクトがもたらされるか

本PI評価に基づくファイナンスは、大きなポジティブ・インパクトの発現及びネガティブ・インパクトの抑制が期待される。

イオンファンタジーは、イオングループのサービス・専門店事業における中核企業であり、延べ店舗数は1,100超と国内でも有数のアミューズメント施設、プレイグラウンド

施設の展開数を誇る。イオンファンタジーはマテリアリティにおいて「従業員がいきいきと働ける組織づくり」を掲げており、働く全ての従業員（ファンタジーピープル）の働きがいの向上や、障がいを抱えたファンタジーピープルに対する活躍の場の提供に取り組んでいる。これらのような取り組みは「雇用」のポジティブ・インパクト発現、「健康および安全性」「その他の社会的弱者」のネガティブ・インパクト抑制につながっており、社会にもたらすインパクトが大きい。

③ 効率性: 投下資本に比して大きなインパクトがもたらされるか

本PI評価に基づくファイナンスは、効率的なポジティブ・インパクトの発現及びネガティブ・インパクトの抑制が期待される。

イオンファンタジーは「子供たちの夢を育み、“えがお”あふれる世界をつくる」をパーパスとしてグループの最上位概念に位置付けており、本パーパスに基づき、2022年にサステナビリティ方針を定めた。

イオンファンタジーは方針に定めた価値を持続的に創出していくにあたり、「こどもたちの未来への貢献」、「従業員がいきいきと働ける組織づくり」、「地域社会とのコミュニケーションの深化」、「脱炭素社会・循環型社会・生物多様性保全の実現」、「コーポレート・ガバナンスの強化」という5つのマテリアリティを特定している。これら5つのマテリアリティはこの度設定した各KPIが示す4つのインパクトと関わりを持っており、本PI評価においてもインパクトが特定されている。

したがって、本PI評価に基づくファイナンスの後押しによって、インパクトの効率的な発現・抑制が期待される。

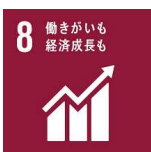
④ 倍率性: 公的資金や寄付に比して民間資金が大きく活用されるか

各KPIが示すインパクトについて、本項目は評価対象外である。

⑤ 追加性: 追加的なインパクトがもたらされるか

本PI評価に基づくファイナンスは、以下にリストアップした通り、SDGsの17目標及び169ターゲットのうち複数の目標・ターゲットに対して、追加的なインパクトが期待される。

(1) 『「ファンタジーピープルいきいき度」の改善』に係る SDGs 目標・ターゲット



目標 8: 働きがいの経済成長も

ターゲット 8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。



目標 10: 人や国の不平等をなくそう

ターゲット 10.2 2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

(2) 『障がい者雇用』に係る SDGs 目標・ターゲット



目標 8: 働きがいも 経済成長も

ターゲット 8.5 2030 年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。



目標 11: 住み続けられるまちづくりを

ターゲット 10.2 2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

(3) 『快適で安心・安全な遊び場の提供』に係る SDGs 目標・ターゲット



目標 10: 人や国の不平等をなくそう

ターゲット 10.2 2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

(4) 『プラスチック使用量の削減及び遊戯機械・景品の廃棄の削減』に係る SDGs 目標・ターゲット



目標 12: つくる責任 つかう責任

ターゲット 12.4 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。

ターゲット 12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

7. モニタリング方針

千葉銀行は、イオンファンタジーの事業活動から意図されたポジティブ・インパクトが継続して生じていること、重大なネガティブ・インパクトが引き続き適切に回避、低減されていることを、継続的に少なくとも年1回モニタリングする。本PI評価の契約にあたっては、インパクトを生み出す活動やKPI等に関して、継続的、定期的、かつ必要に応じて適時に情報開示することをイオンファンタジーに要請している。イオンファンタジーの各種開示情報等を確認することにより、目標達成に向けた進捗度合い及び取り組みをモニタリングし、その結果について千葉銀行グループのホームページに開示していく。各KPIに係る目標については、本PI評価に基づくファイナンスの契約期間後の目標年度までの施策や、契約期間中に目標年度が到来した場合の後続目標の設定状況等についても確認する。イベント発生時においては、イオンファンタジーから状況をヒアリングし、必要に応じて対応策等に関するエンゲージメントを行う。本PI評価に基づくファイナンスの資金提供者となった千葉銀行以外の金融機関等は、上記モニタリング結果について千葉銀行グループのホームページで確認することができる。当該金融機関等は、モニタリング結果の確認を踏まえ、必要に応じ自らの判断においてイオンファンタジーと直接エンゲージメントを行う。なお、モニタリングの結果、①本PI評価の前提となるイオンファンタジーのサステナビリティ活動に重大な影響を与える事象（サステナビリティ方針・推進体制の変更、マテリアリティの変更、M&Aの発生、規制等の制度面の大幅な変更、天災や感染症蔓延等の異常事象等）が認められた場合、②①及びその他の要因により本PI評価で選定されたインパクトに変更が生じた場合、あるいは③KPI・目標に変更が生じた場合、本PI評価の内容は更新される。

8. モデル・フレームワークの活用状況評価

JCRは上記3～7より、本PI評価において、SDGsに係る三側面（環境・社会・経済）を捉えるモデル・フレームワークの包括的インパクト分析（インパクトの特定・評価・モニタリング）が、十分に活用されていると評価している。

IV. PIF 原則に対する準拠性等について

JCR は、千葉銀行の PIF 商品組成に係るプロセス、手法及び社内規程・体制の整備状況、並びにイオンファンタジーに対する PIF 商品組成について、PIF 原則に沿って以下の通り確認した結果、全ての要件に準拠していると評価している。また、本 PI 評価は「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合的であると評価している。

1. PIF 原則 1 定義

| 原則 | JCR による確認結果 |
|--|---|
| PIF は、ポジティブ・インパクト・ビジネスのための金融である。 | 本 PI 評価は、千葉銀行がイオンファンタジーのポジティブ・インパクト・ビジネスを支援するための PIF を実施する枠組みと位置付けられている。 |
| PIF は、持続可能な開発の三側面（環境・社会・経済）に対する潜在的なネガティブ・インパクトが十分に特定・緩和され、一つ以上の側面でポジティブな貢献をもたらす。 | 本PI評価に基づくファイナンスでは、環境・社会・経済の三側面に対するネガティブ・インパクトが特定・緩和され、ポジティブな成果が期待される。 |
| PIF は、持続可能性の課題に対する包括的な評価により、SDGs における資金面の課題への直接的な対応策となる。 | 本 PI 評価に基づくファイナンスは、SDGs との関連性が明確化されており、当該目標に直接的に貢献し得る対応策である。 |
| PIF 原則は、全カテゴリーの金融商品及びそれらを支える事業活動に適用できるよう意図されている。 | 本 PI 評価では、タームローンをはじめとする各種ファイナンスが想定されている。 |
| PIF 原則はセクター別ではない。 | 本 PI 評価では、イオンファンタジーの事業活動全体が分析されている。 |
| PIF 原則は、持続可能性の課題における相互関連性を認識し、選ばれたセクターではなくグローバルなポジティブ及びネガティブ・インパクトの評価に基づいている。 | 本 PI 評価では、各インパクトのポジティブ・ネガティブ両面が着目され、ネガティブな側面を持つ項目にはその改善を図る目標が、ポジティブな側面を持つ項目にはその最大化を図る目標が、それぞれ設定されている。 |

2. PIF 原則 2 フレームワーク

| 原則 | JCR による確認結果 |
|--|--|
| PIF を実行するため、事業主体（銀行・投資家等）には、投融資先の事業活動・プロジェ | 千葉銀行及びちばぎん総合研究所は、ポジティブ・インパクトを特定しモニターする |

| | |
|---|--|
| <p>クト・プログラム・事業主体のポジティブ・インパクトを特定しモニターするための、十分なプロセス・方法・ツールが必要である。</p> | <p>ためのプロセス・方法・ツールを開発した。また、運営要領として詳細な規程を設けており、職員への周知徹底と評価の一貫性維持に有効な内容となっている。一方、今後案件数を重ねる中で、融資判断の参考となるポジティブ・インパクトの尺度、ガバナンス体制の評価項目につき具体的な基準を検討していくことで、PIFとしてより効果的な融資を実行し得るものと考えられる。</p> |
| <p>事業主体は、ポジティブ・インパクトを特定するための一定のプロセス・基準・方法を設定すべきである。分析には、事業活動・プロジェクト・プログラムだけでなく、子会社等も含めるべきである。</p> | <p>千葉銀行及びちばぎん総合研究所は、モデル・フレームワークに沿って、ポジティブ・インパクトを特定するためのプロセス・基準・方法を設定しており、子会社等を含む事業活動全体を分析対象としている。</p> |
| <p>事業主体は、ポジティブ・インパクトの適格性を決定する前に、一定の ESG リスク管理を適用すべきである。</p> | <p>千葉銀行及びちばぎん総合研究所は、ポジティブ・インパクト分析に際し、UNEP FI から公表されているインパクト・レーダー及びインパクト分析ツールを活用している。</p> |
| <p>事業主体は、金融商品として有効な期間全体に亘り意図するインパクトの達成をモニターするための、プロセス・基準・方法を確立すべきである。</p> | <p>千葉銀行及びちばぎん総合研究所は、モニタリングのためのプロセス・基準・方法を確立している。</p> |
| <p>事業主体は、上記のプロセスを実行するために、必要なスキルを持ち、然るべき任務を与えられたスタッフを配置すべきである。</p> | <p>千葉銀行及びちばぎん総合研究所には、上記プロセスを実行するために必要なスキルを持つ担当部署・担当者が存在している。</p> |
| <p>事業主体は、上記プロセスの導入について、必要に応じてセカンド・オピニオンや第三者による保証を求めるべきである。</p> | <p>千葉銀行は、今般 JCR にセカンド・オピニオンを依頼している。</p> |
| <p>事業主体は、プロセスを随時見直し、適宜更新すべきである。</p> | <p>千葉銀行は、社内規程によりプロセスを随時見直し、適宜更新している。本第三者意見に際し、JCR は 2024 年 6 月改定の同行社内規程を参照している。</p> |
| <p>ポジティブ・インパクト分析は、例えば商</p> | <p>千葉銀行及びちばぎん総合研究所は、ポジ</p> |

| | |
|---|--|
| <p>品・プロジェクト・顧客に関する研修や定期的なレビューの際、既存のプロセスと同時に行うことができる。ポジティブ・インパクト分析は、一般に広く認められた既存のツール・基準・イニシアティブがあれば、それらを有効に活用することができる（例えばプロジェクト・ファイナンスでは、赤道原則は一般に広く認められたリスク管理基準である）。</p> | <p>ティブ・インパクト分析に際し、参考となる基準等が明記された UNEP FI のインパクト・レーダー及びインパクト分析ツールを活用している。</p> |
|---|--|

3. PIF 原則 3 透明性

| 原則 | JCR による確認結果 |
|--|---|
| <p>PIF を提供する事業主体（銀行・投資家等）は、以下について透明性の確保と情報開示をすべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブ・インパクトとして資金調達する活動・プロジェクト・プログラム・事業主体、その意図するポジティブ・インパクト（原則 1 に関連） ・適格性の決定やインパクトのモニター・検証のために整備するプロセス（原則 2 に関連） ・資金調達する活動・プロジェクト・プログラム・事業主体が達成するインパクト（原則 4 に関連） | <p>本 PI 評価に基づくファイナンスでは、本第三者意見の取得・開示により透明性が確保されている。また、イオンファンタジーは KPI として列挙された事項につき、ウェブサイト等で開示していく。当該事項につき、千葉銀行及びちばぎん総合研究所は少なくとも年に 1 回、定期的に達成状況を確認し、必要に応じてヒアリングを行うことで、透明性を確保していく。</p> |

4. PIF 原則 4 評価

| 原則 | JCR による確認結果 |
|---|---|
| <p>事業主体（銀行・投資家等）の提供する PIF は、実現するインパクトに基づいて評価されるべきである。</p> | <p>千葉銀行は、本 PI 評価に基づくファイナンスについて、期待されるインパクトを PIF 第 4 原則に掲げられた 5 要素（①多様性、②有効性、③効率性、④倍率性、⑤追加性）に基づき評価している。JCR は、当該インパクトについて第三者意見を述べるに際</p> |

し、十分な情報の提供を受けている。

5. インパクトファイナンスの基本的考え方

PIF TF の「インパクトファイナンスの基本的考え方」は、インパクトファイナンスを ESG 金融の発展形として環境・社会・経済へのインパクトを追求するものと位置づけ、大規模な民間資金を巻き込みインパクトファイナンスを主流化することを目的としている。当該目的のため、国内外で発展している様々な投融資におけるインパクトファイナンスの考え方を参照しながら、基本的な考え方を整理しているものであり、インパクトファイナンスに係る原則・ガイドライン・規制等ではないが、国内でインパクトファイナンスを主流化するための環境省及び ESG 金融ハイレベル・パネルの重要なメッセージである。

- 要素① 投融資時に、環境、社会、経済のいずれの側面においても重大なネガティブインパクトを適切に緩和・管理することを前提に、少なくとも一つの側面においてポジティブなインパクトを生み出す意図を持つもの
- 要素② インパクトの評価及びモニタリングを行うもの
- 要素③ インパクトの評価結果及びモニタリング結果の情報開示を行うもの
- 要素④ 中長期的な視点に基づき、個々の金融機関/投資家にとって適切なリスク・リターンを確保しようとするもの

「インパクトファイナンスの基本的考え方」は、インパクトファイナンスを上記の 4 要素を満たすものとして定義しており、本ファイナンスは当該要素と整合的である。また、本ファイナンスにおけるインパクトの特定・評価・モニタリングのプロセスは、「インパクトファイナンスの基本的考え方」が示しているインパクトファイナンスの基本的流れ（特に企業の多様なインパクトを包括的に把握するもの）と整合的である。

V. 結論

以上より、JCR は、本 PI 評価が PIF 原則及びモデル・フレームワークに適合していること、また「インパクトファイナンスの基本的考え方」と整合していることを確認した。

(担当) 川越 広志・日野 響

本第三者意見に関する重要な説明

1. JCR 第三者意見の前提・意義・限界

日本格付研究所（JCR）が提供する第三者意見は、事業主体及び調達主体の、国連環境計画金融イニシアティブの策定したポジティブ・インパクト金融（PIF）原則への適合性及び環境省 ESG 金融ハイレベル・パネル内に設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」への整合性に関する、JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該ポジティブ・インパクト金融がもたらすポジティブなインパクトの程度を完全に表示しているものではありません。

本第三者意見は、依頼者である調達主体及び事業主体から供与された情報及び JCR が独自に収集した情報に基づく現時点での計画又は状況に対する意見の表明であり、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。また、本第三者意見は、PIF によるポジティブな効果を定量的に証明するものではなく、その効果について責任を負うものではありません。本事業により調達される資金が同社の設定するインパクト指標の達成度について、JCR は調達主体または調達主体の依頼する第三者によって定量的・定性的に測定されていることを確認しますが、原則としてこれを直接測定することはありません。

2. 本第三者意見を作成するうえで参照した国際的なイニシアティブ、原則等

本意見作成にあたり、JCR は、以下の原則等を参照しています。

国連環境計画 金融イニシアティブ

- ・ポジティブ・インパクト金融原則
- ・資金用途を限定しない事業会社向け金融商品のモデル・フレームワーク

環境省 ESG 金融ハイレベル・パネル内ポジティブインパクトファイナンスタスクフォース

- ・インパクトファイナンスの基本的考え方

3. 信用格付業にかかるとの関係

本第三者意見を提供する行為は、JCR が関連業務として行うものであり、信用格付業にかかるとは異なります。

4. 信用格付との関係

本件評価は信用格付とは異なり、また、あらかじめ定められた信用格付を提供し、または閲覧に供することを約束するものではありません。

5. JCR の第三者性

本 PIF の事業主体または調達主体と JCR との間に、利益相反を生じる可能性のある資本関係、人的関係等はありません。

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、事業主体または調達主体及び正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。本第三者意見は、評価の対象であるポジティブ・インパクト・ファイナンスにかかる各種のリスク（信用リスク、価格変動リスク、市場流動性リスク、価格変動リスク等）について、何ら意見を表明するものではありません。また、本第三者意見は JCR の現時点での総合的な意見の表明であって、事実の表明ではなく、リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。本第三者意見は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■用語解説

第三者意見：本レポートは、依頼人の求めに応じ、独立・中立・公平な立場から、銀行等が作成したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書の国連環境計画金融イニシアティブのポジティブ・インパクト金融原則への適合性について第三者意見を述べたものです。

事業主体：ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施する金融機関をいいます。

調達主体：ポジティブ・インパクト・ビジネスのためにポジティブ・インパクト・ファイナンスによって借入を行う事業会社等をいいます。

■サステナブル・ファイナンスの外部評価者としての登録状況等

- ・国連環境計画 金融イニシアティブ ポジティブインパクト作業部会メンバー
- ・環境省 グリーンボンド外部レビュー者登録
- ・ICMA (国際資本市場協会に外部評価者としてオブザーバー登録) ソーシャルボンド原則作業部会メンバー
- ・Climate Bonds Initiative Approved Verifier (気候債イニシアティブ認定検証機関)

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル